

合掌パワー

高野山東京別院にて、「合掌」について法話をさせていただいたことがあります。一時間の役目を終えて応接間で控えていましたら、総代の根岸さんが入ってこられました。「只今は合掌について詳しくお話を戴き、有り難うございました」と、御礼のことは述べながら根岸さんは、「私も合掌によって救われました」といわれます。「どのように救われたのですか？」と、私は尋ねました。根岸さんは、第二次大戦のときに日本兵として中国へ遠征していました。以下は、根岸総代さんの生涯忘れえぬ体験談です。

根岸さんの任務は、現地の人民を捕虜として本部へ輸送することでした。捕虜の調書を取り、毎日のように本部へ輸送していました。しかし、戦争は次第に激しくなり、やがて本部から、「捕虜はその場で処刑せよ」という命令が届けられます。この厳命に根岸さんは非常に悩みました。寝られぬ夜が悶々と続きます。罪もない人民をどうして斬ることができましようか。しかし、執行しなければ上官命令に背き、自分が処罰されます。やむにやまれず、身を奮い立たせ、処刑の覚悟をします。

その場に及び、日本刀を上段に構えました。捕虜は悲痛な顔色で合掌したままです。根岸さんは、その合掌の姿を前にして刀を振り落とすことができません。上官に背くけれども、これまでと同じように調書を取り、本部へ黙って届けました。

「あのとき、あの人が、もしも暴れて騒いだならば、私は追いかけて刀を振り落としていたかもしれません。しかし、捕虜は静かに合掌したままでした。あのとき、あの場で合掌してくれていたからこそ、私はつくらなくてもよい罪をつくらずに済みました。本当に合掌の力は凄いですよ！」

東京別院の総代さんは私に熱っぽく語ってくださいました。

「強盗に囲まれて刀剣で脅されても、抵抗せずにひたすら合掌して観世音菩薩を念ずれば、かえってその盗賊が慈悲心を起こす」と、『観音経』にあります。

わく ち おん ぞく によ かく しゅう とう か がい ねん び かん のん りき げん そく き じ しん
或 値 怨 賊 繞 各 執 刀 加 害 念 彼 観 音 力 咸 即 起 慈 心
或は怨賊の繞みに値い 各 刀を執って害を加うるにも 彼の観音の力を念ずれば 咸く即ち慈心を起さん

目をつぶって 合掌をしているだけで ころろは落ちていきます

みぎほとけ ひだりはわれと あわすでの なかぞゆかしき なむのひとこえ